九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[037]九州人類学会報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2344469

出版情報：九州人類学会報. 37, 2010-07-10. Kyushu Anthropological Association
バージョン：
権利関係：

九州人類学研究会　平成21年度活動報告

【会員数】(2010年6月24日現在)
会員　121名
（内、入会者　5名）
退会者　3名

【平成21年度運営委員（五十音順)】
伊藤　泰信（北陸先端科学技術大学院大学）：会報編集委員
飯嶋　秀治（九州大学）：会報編集委員
太田　好信（九州大学）：九州・沖縄地区研究懇談会担当理事
大谷　裕文（西南学院大学）
片多　順（福岡大学）
片山　隆裕（西南学院大学）：会報編集委員長
慶田　勝彦（熊本大学）
白川　琢磨（福岡大学）：会計監査
関　一敏（九州大学）：会計・庶務
長谷　千代子（九州大学）：会報編集委員・編集事務
波平　恵美子
古谷　嘉章（九州大学）：会長
宮岡　真央子（福岡大学）
森田　真也（筑紫女学園大学）：会報編集委員
計　14名

活動報告

7月例会：総会・シンポジウム
【日時】平成21年7月18日（土）
【場所】九州大学箱崎文系キャンパス
【運営委員会・総会】
13：30〜14：10　九州人類学研究会運営委員会（運営委員のみ）
14：15〜14：45　九州人類学研究会総会（会員全員）

【シンポジウム】15：00〜18：00
「文化人類学の現在から未来へ—激動する世界をどう分析するか、それとどうかかわるか—」
発表者：　浜本　満・波平　恵美子・飯嶋　秀治・太田　好信
コメンテーター：　古谷　嘉章
司会：　関　一敏

【趣意】本シンポジウムは、激動する世界における文化人類学的知識の位置づけを多様な観点から論じ合うことを目指す。文化人類学は、その黎明期から「世俗的」性格をもつ知識であった。ここでは世俗的ということばの意味を、文化人類学が知識として普遍性を志向する一方で、その知識の被歴史拘束性への反省をも同時に含んでいることを指す。研究対象は大きく変化し、問題関心も拡散し、さらに方法論も変更を余儀なくされている現在においても、文化人類学は世俗的である。激動する世界をどう分析するか、分析の結果をどのように社会

と関連づけるか、これらの疑問への回答は、世界をどのように変化している世界と捉えるか、文化人類学的知識をどのような特性をもった知識として捉えるか、などの認識の差異から、それぞれ異なったものになるであろう。より具体的には、次のような疑問が想定される。新自由主義が経済編成を通して世界認識のあり方そのものをも再編し、文化や社会もその外部として存在しなくなったいま、文化人類学の分析はどのような斬新な知見をもたらすのか。また、冷戦構造の終焉により、贖罪や感情を語る言語が資本をめぐる闘争の対立を語る言語に置き換わった時、文化人類学と社会との啓蒙的関係は、どのような位相になるのか。有益な知識、社会に還元するべき研究成果が常套句となっているとき、文化人類学的知識はいかなる変容を被るのか。

参加者　50名

11月例会：第8回　九州人類学研究会オータムセミナー

【日時】平成21年11月7日（土）～11月8日（日）
【場所】サンヴィレッジ茜
【プログラム】
11/7(土)　14：00～17：00
セッションA：「人類学を／で豊かにすること—他領域との関係から人類学の拡張可能性を考える」

伊藤　泰信（北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科）
「趣旨説明」「人類学とビジネス——産業系エスノグラフィをめぐって」
飯嶋　秀治（九州大学大学院人間環境学研究院）
「人類学と経済学——個人投資家の事例から」
春日　匠（大阪大学コミュニケーションデザインセンター）
「人類学とＳＴＳ（科学技術社会論）——合理性の枠組みを揺るがす」
亀井　伸孝（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
「人類学と開発研究——マイノリティの人間開発に参与観察を活かす」
コメンテーター：針塚　瑞樹（筑紫女学園大学非常勤講師）
後藤　晴子（九州大学大学院人間環境学府）

11/8(日)　9:00～12:00
セッションB：「フィールドワークの原液」
発表者：関根　康正（日本女子大学人間社会学部）「ストリートの人類学から」
コメンテーター：内藤　順子（日本学術振興会特別研究員）

参加者　33名

3月例会：平成21年度修士論文発表会

【日時】平成22年3月20日（土）14：00～17：10
【場所】九州大学箱崎文系キャンパス

【修士論文発表会】
生田　雅子　（九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻共生社会学コース）
「生きるための宗教：ハンセン病療養所と宗教の問題を考える」

片山　愛　（九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻共生社会学コース）
　「「支援」の人類学：北タイ山地民支援ＮＧＯの事例から」
瀬本　康晴　（熊本大学大学院社会文化科学研究科）
　「中国「次文化」における親日・反日の民族誌：消費されるイデオロギーと商品」
町　泰樹　（鹿児島大学大学院人文社会科学研究科　人間環境文化論専攻）
　「鹿児島県与論島における近代火葬場の成立」
堀川　輝之　（琉球大学大学院人文社会科学研究科）
　「人の移動と近代化からみたシマの変化：沖縄県宮古島市字来間を事例として」

参加者：44 名

会報の発行
『九州人類学会報』第 37 号の刊行（平成 22 年 7 月 10 日）

名簿の発行
『九州人類学会報（別冊）九州人類学研究会会員名簿』の刊行（平成 22 年 7 月 10 日）